



令和6年度岩手医科大学卒業式が挙行されました 広報委員長 黒瀬 雅之



小笠原学長から学位記を受け取る相場春花さん

小林歯学部長から学位記を受け取る石田まゆさん

2025年3月7日午前10時より、トーサイクラシックホール岩手大ホールで行われた卒業式は、暖かな陽気とともに感動的な一日となりました。式典には、たくさんの卒業生とその家族、そして学校関係者が集まりました。

式の進行はとてもスムーズで、最初に卒業生たちが一人一人、堂々と名前を呼ばれる場面はとても印象的でした。それぞれの学生が、これまでの努力と成長を象徴するかのように、誇らしげに壇上に立っていました。

また、祖父江理事長や小笠原学長からの祝辞は、卒業生にとって励ましの言葉とともに、これからの人生に向けた大切なメッセージが込められていました。特に、歯科医師人生における挑戦を恐れず、前向きに進んでいくことの大切さを説く言葉は心に残りました。

式典後、記念撮影を行うご家族や後輩たちの姿もとても温かく、卒業生を祝う気持ちがひしひしと伝わってきました。この日のために勉学に励んできた卒業生たちが、これからどんな道を進んでいくのか楽しみであり、応援の気持ちが一層強くなりました。



祝辞を述べられる小笠原学長



祝辞を述べられる祖父江理事長



卒業生代表宣誓を行う小原康輔さん



卒業生代表謝辞を述べる羽金雅登さん

令和6年度は、歯学部からは37名が卒業し卒業証書を受け取りました。大学院歯学研究科からは、8名が修了し学位記が授与されました。

令和6年度卒業祝賀・謝恩会が開催されました

広報委員長 黒瀬 雅之

コロナで中止になっていた謝恩会が、本年度は盛岡グランドホテルで開催されました。卒業生たちと直接顔を合わせ、改めて彼らの成長を感じることができて、とても嬉しく思いました。このような会を開催して頂きました父兄会の皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。卒業生からの感謝の言葉や、互いに励まし合う姿を見ると、6年間という長い時間を乗り越えてきた強さを感じました。彼らの新たな一歩を見守り、応援していきたいと思えます。



卒業に寄せて

皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日まで努力を積み重ね、歯科医師を志す情熱を持ち続けて学びに励んでこられた皆さんに、心より敬意を表します。卒業式で晴れやかな表情で学位記を受け取る姿を見ることは、私たち教員にとってこの上ない喜びです。

これから歯科医師として歩み始める皆さんに、「勇往邁進」という言葉を贈ります。これは、目標に向かって恐れず、ひたすら前進するという意味です。これからの道のりには、困難や不安に直面することもあるでしょう。しかし、歯科医師としての成長には近道はありません。課題にぶつかったときは、自己研鑽によって乗り越えていくしかないのです。

自ら選んだこの道を、あきらめず、心折れず、一步一步着実に進んでいってください。患者さんと真摯に向き合う姿の中に、皆さんの「誠」がきっと輝くことでしょう。大学で培った知識、技術、そして仲間との絆は、皆さんの大きな支えになるはずです。苦しい時には、どうか母校を思い出し、頼ってください。皆さんの未来に幸多からんことを祈り、新たな門出を心より祝福いたします。



歯学部長
小林 琢也 教授



歯科医療センター長
山田 浩之 教授

55期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。6年間のカリキュラムを無事に修了できたことは、大きな自信になったことと思います。

これから臨床研修に臨むに当たり、それぞれの研修先でこれまで培った様々な力を惜しみなく発揮してもらいたいと思います。

また、国家試験で悔しい思いをした人は、「人間万事塞翁が馬」という言葉を心に刻みながら、仕切り直して頑張ってもらいたいと思います。無駄なことなどないはずですよ。

スムーズに進むことばかりではないかもしれませんが、是非、熱意をもってそれぞれの課題に取り組んでももらいたいと思います。熱い気持ちで、周囲の人達を動かし、目的の達成に繋がるに違いありません。

われわれは、これからも卒業生の皆さんを応援し続けます。

55期生の皆さん、卒業おめでとうございます。ご両親、ご親族の皆様におかれましてもそのお慶びはいかばかりかと心からお祝い申し上げます。私が岩手医大に赴任し、最初にクラス担任を受け持ったのが55期生でした。今から4~5年前の低学年の頃は、高校時代との勉強内容や進み方の違いになかなかついていくことが難しかったり、心身の健康を崩しやすかったり、朝早く起きることがなかなかできなかったり、授業を欠席しがちで、欠席数がリーチあるいはオーバーしてしまったり、冬に車で鹿とぶつかったり、それにもましてコロナ禍という困難に巻き込まれたことは大変なことであったと思います。しかし、その様な様々な課題をそれぞれの努力によって見事に乗り越え、卒業を迎えられたことを心から嬉しく思っています。皆さんの努力を誇りに思います。

これからは歯科医師として「医療人たる前に誠の人間たれ」の学是を胸に、一人でも多くの病める患者様を救って頂きたいと願っています。改めて、卒業誠におめでとうございます。



55期生担任
入江 太朗 教授

卒業生の声

卒業

相場 春花さん

6年前、これからの新しい生活に心を躍らせながら入学したのを鮮明に思い出します。新しい友達ができ、歯学に触れ、充実した毎日でした。毎週のテストに挫けそうになっていた時期もありました。楽しかったこと、難しかったこと、それを乗り越えられたこと、今では全てが大切な経験となっています。寝る間も惜しんで友達と遊び、寝る間も惜しんで勉強した6年間でした。

先生方、職員の皆様、家族、友達、多くの人に支えられ、卒業を迎えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。6年間たくさんの学びをありがとうございました。



歯科医師への道のり

石田 まゆさん



私にとっての大学生活は長いようで振り返ってみるとあっという間な6年間でした。寮生活で友達ができるか不安でしたが、部活動などを含め沢山の友達に恵まれて楽しく過ごせた大学生活でした。毎年、「進級」という関門を突破するためにひたすら勉強に追われていたような気がしますが、その中でも友達と楽しいことも辛いことも一緒に乗り越えてこれたことは、すべていい思い出として心に残っています。大学生活で学んだこと経験したことを糧に、これからの人生に活かしていきたいです。

医療従事者であるという自覚をもち、患者さんの立場になって物事を考えながら行動できるような歯科医師になります。最後に6年間支えてくれた友達、家族、先生方、本当にありがとうございました。

大学生活を終えて

大川 隼さん

恐縮なことに先生より卒業生の言葉としてのご依頼を承って筆をとっています。9年間在学した私はさぞ思い出がたくさんあるだろうとご配慮からだと思われます。思い返せば広報誌に胸を張ってかけるような立派な思い出や功績はなく常に仲間たちと騒いでいたような日々でした。カリキュラムに追われながらもたわいもない内容でゲラゲラ笑っていたことこそが思い出です。しかし私は人生において遊びのなかにこそ本質があると思っています。

今は幸いなことにいろいろな生き方が認められる多様性の社会です。何のために稼ぐのか、自分は何をしたいのか人の痛みを知り、さまざまな価値観や経歴を理解する社会人でありたいと思います。



拝啓、旅人たる私へ

小原 康輔さん

「僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる」
これは高村光太郎氏による詩、「道程」の一節です。今回寄稿するにあたって学生生活を振り返ったとき、この一節がふと胸の内に現れました。思えば、毎日を我武者羅に過ごしていた私にとっては必然であるとも窥えます。

学生生活で最も鮮烈な出来事は基礎領域の学問に触れたことです。実家を継ぐことだけを考えていた私にとっては、正に天啓にうたれたような衝撃でした。自らの体が内包する小宇宙に私の心の羅針盤はその針を向けずにはいられませんでした。思い返せば自らの至らなさから苦悩の連続に悶える日々ではありましたが、それらは全て私の心の中で宝物のように輝いています。

一生のうちにあと何度後悔できるだろうか。迷った道が私の道となるのです。



出会いの6年間

中島 弘敬さん

岩手医科大学歯学部入学からの6年間は自分の想像以上に出会いの多いものでした。入学当初自分の歯の数が計28本であることすらも知らなかった私にとっては大学の講義から得る数々の知識すらも新鮮な出会いでした。実習も初めてのことで協力するクラスメートや先生方も大切な出会いだったと思います。

1年時、とある講義の発表後「もっとマシなやつは居なかったのか」という言葉をかけてきた先生に対し人生で最も強い反骨精神を抱いたのも出会いでした。マシ以下から積み重ねて6年間を経てこの度卒業できたことも感慨深く思います。

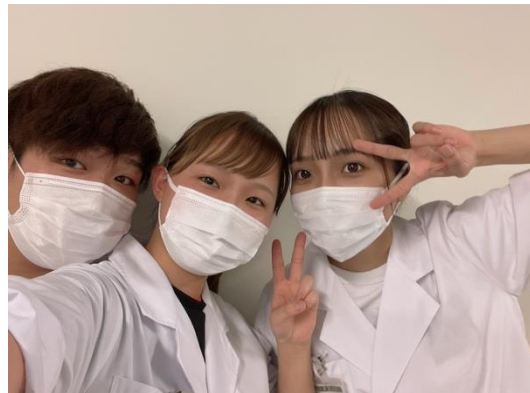
これからも自分の出会いの積み重ねで形成されていく人生を楽しんでいきたいです。

卒業、これからの歯科医師として

若原 翔帆菜さん

2019年期待と不安を胸に入学した私たちは6年間の学生生活を終え、この春岩手医科大学歯学部を卒業しました。6年間の学びは、苦しいことも多かったです。仲間と共に乗り越えた日々が今となっては宝物です。諸先生方の熱心な指導や、実習での貴重な経験は、私たちの成長に大きく影響を与えました。特に印象に残っているのは、5年次の臨床実習での患者様との関わりです。患者様の治療計画を先生方と慎重に話し合ったことが、とても印象に残っています。最適な治療を提供するために知恵を絞った瞬間は、専門家としての成長を実感させてくれる貴重な経験となりました。

これからの道のりには、多くの挑戦が待っていますが、岩手医科大学で学んだ時間を胸に、常に向上心を持って歩んでいきたいと思っています。この場所で得た同志との絆を大切に、社会に貢献できる歯科医師を目指します。ありがとうございました。

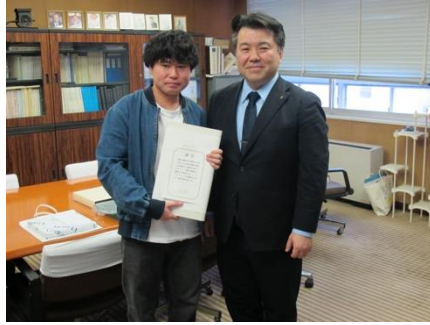


成績優秀者の表彰を行いました

3月6日、内丸キャンパス歯学部長室で成績優秀者の表彰を行いました。小原康輔さんがデンツプライシロナ社から、羽金雅登さんがクインテッセンス社から、大川隼さんがモリタ社から表彰を受けました。



表彰を受ける小原康輔さん



表彰を受ける羽金雅登さん



表彰を受ける大川隼さん

公的化された初年度共用試験CBTが実施されました CBT委員長 八重柏隆

2024年度共用試験CBTが1月21日(火)に矢巾キャンパスのマルチメディア教室で実施され、4年生全員(37名)が受験しました。本年度から共用試験は公的化され、歯科医師国家試験の受験資格となります。また昨年度までは各大学が自由に設定出来たCBT合格水準も新たに全国统一され、IRT(能力値、標準偏差に類似)481以上で合格となりました。本年度は公的化初年度のせいか学生も教職員もこれまで以上に緊張気味でした。CBT本試験(本学平均IRT542、昨年度同値IRT556.9、昨年度全国平均IRT542)では残念ながら全員合格とはならなかったため、2月18日(火)にCBT再試が実施されました。

4年CBT成績と6年卒業時国試合格率は、極めて相関が高いことが全国的に知られています。5年、6年卒業で留年せずストレート国試合格した本学4年IRT最低値は544(前年度549)です。本年度で最後のCBT委員長としては、全国平均IRT以上の基本学力を4年次までに学生全員が修得して国試に無事合格していただきたいです。



卒業おめでとうございます

歯学部教務課長 斉藤 旭

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業までの道のりは決して平坦ではなく、卒業に至るまでの努力は想像を超えるものであったと思います。また、卒業生の皆様を支えてこられた保護者、ご家族の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。歯学部教務課では、講義室の設備備品の不具合対応、日々の生活における相談、各種手続きのサポートなど、大学生活に関する様々な支援をさせていただきました。事務室から見る学生であった皆様が晴れやかに卒業していく姿をみるに、とても感慨深い気持ちになります。

これからも日々知識や技術を研鑽し、経験を積み重ねながら人間力を高めていってください。歯科医師や研究者など、目指すゴールは人それぞれ異なるかもしれませんが、岩手医科大学歯学部で培った知識と経験をもって、今後必ず訪れるであろう社会の荒波やハードルを乗り越えていただければ幸いです。



2025（令和7）年3月31日付けで岩手医科大学を退職した歯学部歯科保存学講座歯周療法学分野の八重柏隆（本学15期、40年前卒業）です。第2保存科（歯周科）大学院に入学し卒業助手、講師、准教授、そして2012年に教授に任用されました。上野和之教授の元では毎日楽しく診療、研究、教育に積極的に従事出来ました。本学歯科医師国家試験の合格率が低迷して歯学部は一変しました。8年間ほど國松和司（14期）教授が担当後、2011年に東日本大震災が発生し、歯学部では教育改革がスタートしました。

強制的に学習させないと決してやらない、やれない学生が年々増加しています。いろいろありましたが同改革を経験し、やらせ方次第で学生の学力向上は実際に可能であることを経験しました。留年率と国試合格率は表裏一体です。本学は現在、次の困難（定員割れ、高い留年率）に直面しています。新卒国試100%合格の15期母校出身者としては、是非、歯学部が存続し再生して欲しいです。

最後に岩手医科大学の益々のご発展と、皆様のご健康とご活躍を祈念して、退職のご挨拶とさせていただきます。本当に長い間大変お世話になり、誠にありがとうございました。



定年退職教授による最終講義が行われました

広報委員長 黒瀬 雅之

2025年2月28日に、大堀記念講堂において、3月31日付をもって定年退職される教授の最終講義が行われました。歯学部からは、歯科保存学講座 歯周療法学分野 八重柏隆教授の最終講義（歯学部で学んだこと）がございました。その講義では、八重柏教授のこれまでの研究と教育に対する熱い情熱、そして学生への深い思いやりが感じられました。最終講義終了後には、職員や学生から花束が贈呈され、惜しめない拍手が送られていました。

歯学部だよりの掲載について

第3号より、圭陵会報に歯学部だよりを掲載して頂くことになっております。

編集後記：編集委員長 熊谷 美保

ご卒業おめでとうございます。大学で過ごした日々は、それぞれの挑戦と成長の積み重ねであり、多くの学びや出会いがあったことと思います。卒業は一つの節目ですが、同時に新たなスタートでもあります。これから先、さまざまな道を歩んでいく中で、悩んだり迷うことがあるかもしれません。しかし、ここで培った経験や絆が、皆さんを支える力になるはずです。母校はいつでも皆さんを応援し続けています。これからの人生が、実り多く、輝かしいものとなることを心から願っております。

発行：岩手医科大学歯学部 編集：広報委員会

本誌に関するご意見・ご要望はkouhou-d@iwate-med.ac.jp まで

写真は執筆者各位の提供により掲載をしております。



Follow me!



@IMU_DENTISTRY